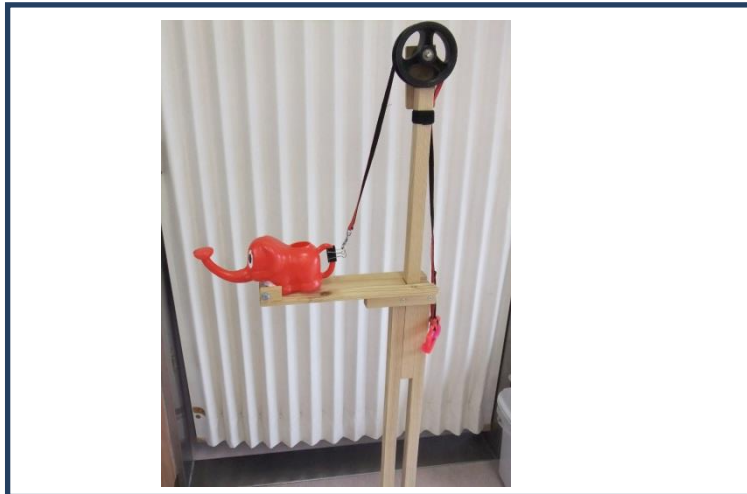


<図・写真>



<材料・製作方法等>

【材料】

- | | |
|-------------|------|
| ・木材 | ・金具 |
| ・ぞうさんじょうろ | ・パイプ |
| ・クリップ | ・釘 |
| ・ひも | |
| ・プラスチックの持ち手 | |

【制作方法】

木材を切り、組み立てる。滑車を取り付けて、ひもが通るようにする。ひもを児童が引っ張るとじょうろが傾くように、じょうろにパイプをつけ、台に固定した金具に差し込むようにする。

<ねらい>

- 係活動の水かけの際に、児童の可能な動きで水をかけることができるようにする。

<指導方法・留意点等>

- ・ S・HN, H・D 児の係活動の水かけで使用する。
- ・ 児童が見える高さに花を置くようにする。
- ・ じょうろから水が出て、花にかかるのが児童から見えるように、水かけマシンの配置に気を付ける。
- ・ H・D 児が使用する際には、水かけマシーンが倒れないように土台を固定する。

<指導経過・成果・課題・展望等>

S・HN 児は、持ち手をつかもうとすると手を引き込んでしまいがちで、つかむのに時間がかかっていたが、日付・天気調べの型外しでも同じ動きを繰り返すことで、水かけマシンの持ち手をつかむことも慣れてきた。自分でやりたいという意識も高く、何度も何度も持ち手をつかもうとする姿が見られた。持ち手をつかむと、右手を引き込む動きでひもを引っ張り、じょうろを傾けることができた。花に水がかかる様子を見て、笑顔になり、自分でできたという達成感を感じていた。

H・D 児は、持ち手を提示すると、つかんで引っ張ることができた。しかし、動きが勢いよく、滑車からひもが外れてしまうことが多かった。滑車からひもがずれないように、マジックテープで固定したが、動きが激しい場合には、注意が必要である。児童は、ひもを引っ張ることで満足し、すぐに手を離してしまうことも多いので、今後、花に水がかかる部分に視線を向け、じょうろの水がなくなるまで、持ち手をつかみ続けることができるように取り組んでいきたい。

